

鉢形城 埼玉県大里郡寄居町鉢形 2496-2

鉢形城跡は、荒川と深沢川に挟まれた断崖絶壁の上の天然の要害の平山城。この地は、交通の要所に当たり、上州や信州方面を望む重要な地点。鉢形城は1476年（文明8年）関東管領であった山内上杉氏の家宰長尾景春が築城したと伝えられる。その後、この地域の豪族藤田泰邦に入婿した小田原の北条氏康の四男氏邦が整備拡充し現在の規模（東京ドーム5個分の敷地）となった。北条氏による北関東支配の拠点として重要な役割を担った。1590年（天正18年）の豊臣秀吉による小田原攻めの際には、後北条氏の重要な支城として氏邦は3千の兵とともに籠城。5月13日前田利家・上杉景勝等の北国軍3万5千人に包囲され攻防戦を展開したが1ヶ月余りにおよぶ籠城の後に氏邦は6月14日、城兵の助命を条件に開城し城は廃城となった。（説明版）



鉢形城の俯瞰図と説明版

同城のジオラマ



土塁



当時の石垣が土に埋もれている





天然の要害である深沢川と荒川に挟まれた断崖絶壁の上に城址はある



二の曲輪(可成り広い)



庭園と石積み土塁